

2008 年度日本木材学会中部支部大会をふりかえって

去る11月13と14日の両日に岐阜県大垣市の大垣フォーラムホテルにて2008年度日本木材学会中部支部大会が開催された。初日は午後からの評議員会に引き続き、研究発表会と展示発表会が行われた。口頭発表は22件、展示発表は14件でそれぞれ活発な質疑応答が行われた。参加者は約70名で大学関係者をはじめ国及び県の研究機関さらには岐阜県内の企業関係者が参加した。全体の参加者数は例年並みであったが、企業の方の参加が少なく感じた。これは、私ども主催者側の準備不足であり深く反省しなければならない。展示発表終了後は恒例の懇親会が同ホテルで開催され、約40人が美酒に酔いしれ、余興の郡上踊りに興じておられた。特に、本部からみえられた鮫島正浩木材学会副会長や滝欽二中部支部長はたいそう楽しんでおられた。

2日目は早朝から総会が執り行われ、次期支部長に名古屋大学の土川寛教授が指名された。また、来年3月に松本で開催予定の本大会および来年度の中部支部大会が共に名古屋大学を中心に実施されることがアナウンスされ、両大会への参加協力が確認された。総会に引き続き、特別講演が岐阜大学工学部名誉教授の小野晃明先生による「木製楽器の材質はどこまで進んだか?」というタイトルで行われた。本講演では、木材に学んだ複合材の開発とそれを表板に用いたギターの試作、表板に添付される力木の音響効果、自由な設計を目指したギター表板のFEMシミュレーション、また木質系材料を用いた自己接着成形体として開発された木質プラスチックを胴材に用いた和太鼓の試作とその特性など、木製楽器材料研究の最前線最をお話しいただいた。本大会最後のイベントは、養老町にあるミズノテクニクス工場見学会であった。ここではイチロー選手や松井秀喜選手らプロ野球選手のバットを創っておられる、久保田氏による木製野球バットの作製実演とミニ講演が行われた。参加者約30名は久保田氏の説明に熱心に聞き入り、木製バットに必要な材質や水分の重要性など専門的な話からプロ野球選手のバットにまつわる逸話などが聞くことができ、活発な質疑応答が行われた。

参加者数や内容など、全体を通して、従前の中部支部大会と同様に充実した大会であったと感じられた。

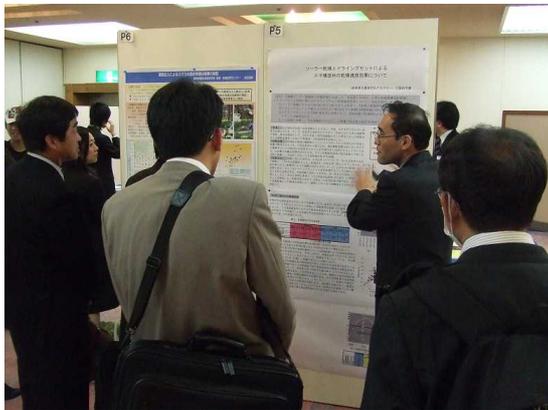


写真1 . 展示発表会の様子



写真2 . 久保田プロバットマイスターによる実演とミニ講演